



『月収』

原田 ひ香 著

[中央公論新社、2025年2月、  
1,870円]

本誌ECONOMYのコーナーでは家計にまつわる記事をお届けしているが、個別の懐事情にまで立ち入った内容とするは諸般の事情により叶わない。ここでご紹介する『月収』はタイトルが示す通り、月収、4万～300万円、年齢も22歳～66歳の6人の女性たちが登場する、その懐事情を切り口とした物語である。年金生活まで数年を残して離婚し、住まいや仕事探しに苦労する専業主婦。執筆活動に専念するため400万円を元手に不動産投資を始める作家兼会社員。両親を介護する将来への不安から新NISAに興味をもち、原資をつくるため節約に邁進する、工場勤務の管理職の女性など。6人の登場人物は年齢や背景がそれぞれ異なるので、読み手は誰かしらに感情移入できるのではないかと思う。私は「第三話 月収10万円を作る女」を読みながら「わかる～」と何度もうなずいた。

同じ著者による『三千円の使いかた』はベストセラーとなり、ドラマ化もされているので、ご覧になった方もいることだろう。どちらの作品もメインの登場人物は女性ではあるが、男女関係なく共感できる部分も多い。金融商品や税金に関する記述もあって、ちょっと先の将来についてイメージしたり、ライフプランを考える時に役立つこと請け合いである。

(執筆：ライター 更田 沙良)

私が料理好きになれたのは、笠原将弘さんのおかげだ。週末の料理番組に出演されていた彼の姿に惚れ込んだのがきっかけだった。元々食いしん坊の私は、キャンプのBBQや単身生活等で料理する機会があったのだが、料理することが楽しくてかっこいいことだと気づかせてくれたのが彼なのだ。

私の得意な料理は、揚げ物等の妻の苦手なジャンル。人に喜んでもらえると俄然やる気が出てくる。昨年、地元の料理コンテストで優勝し、市長に表彰されたのは、孫のためのレシピで、孫たちにも褒めてもらえた。料理は、味、香り、色、音、食感等の五感を刺激してくれるARTだ。これからも美術館巡りと同様、季節毎の家族のイベントの際に、料理を通じて五感をくすぐるART体験をライフワークにしてゆきたい。鰻を丸ごと捌ける娘婿さんを良きライバルとして。

今号で取り上げたテーマ「依存症」と「ハラスメント」は、一見すると全く別の問題ですが、そこには「自己コントロールの欠如」や「自己の正当化」といった共通点もあるように感じました。いずれも背景には「ストレスや不安からの逃避」がありますし、問題を解決するためには周囲のサポートが欠かせません。早い段階で周囲が気づいて対応できれば、ダメージも少ないはず。と言っても、自分がその「周囲」になつた時に気づけるのだろうか？ 対応できるのだろうか？ と考えるとやはり難しい問題です。

(R)

(M)

ご意見をお待ちしております。

ご意見、ご質問、ご感想などをお寄せください。皆様の声を、積極的に活かしていきたいと考えております。

E-mail : alps2@lifeplan.or.jp

協会への交通案内

- 東京メトロ千代田線・日比谷線/霞ヶ関駅 C4 番出口より直結
- 東京メトロ丸の内線/霞ヶ関駅 B2 番出口より徒歩3分
- 東京メトロ銀座線/虎ノ門駅 9 番出口より徒歩3分
- 都営地下鉄三田線/内幸町駅 A7 番出口より徒歩3分

ALPS Vol.162 2025年7月発行

発行 ●一般財団法人地域社会ライフプラン協会

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目1番1号  
飯野ビルディング11階

TEL : 03-6550-8441 FAX : 03-6206-6401

ホームページ <https://www.lifeplan.or.jp>

E-mail [alps2@lifeplan.or.jp](mailto:alps2@lifeplan.or.jp)

編集協力・印刷 ●株式会社丸井工文社

本書からの無断複写・転載を禁じます。  
本誌は再生紙を使用しています。

